

大日本コンサルを特定

各務原大橋の予備設計者
各務原市

岐阜県各務原市はこの予定。

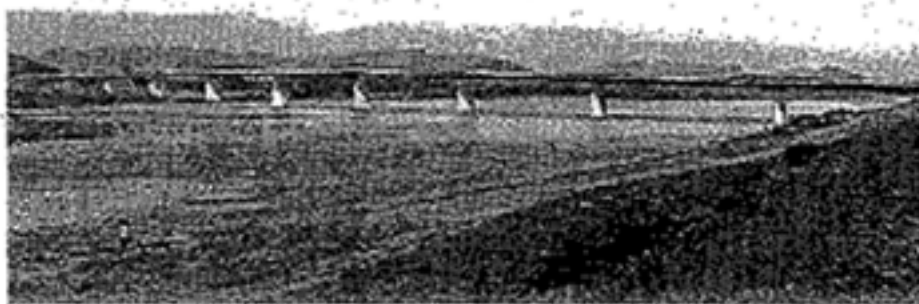
ほど、市道仮称・那加小網線の新設に伴う各務原大橋の予備設計者を大日本コンサルタントに特定した。公募型プロポーザル方式で全国から応募があった21者の中から書類審査で6者が選ばれ、審査委員会（委員長・篠原修東 大大学院教授）で最終審査し、PC10径間連続フィンバック橋を提案した大日本コンサルタントを最優秀案に、アジア航測と大目コンサルタントの2提案を優秀案にそれぞれ特定した。市は付帯意見等を踏まえ、今月中に正式決定し、06年度から予備設計に着手する。着工は07年度以降を

各務原大橋は、同市上

戸町と川島小網町を結ぶ新設道路（仮称・那加小網線、延長2550メートル）の木曾川本川に架けられる。橋梁延長は約600メートル。市は、橋梁形式の決定に際し、同橋を利用する地元住民らに対し、事業の透明性をアピールするとともに、将来にわたって親しんでもらおうと公開プレゼンテーションの開催を決めた。

最終審査の前に同市産業文化会館で市民ら約500人を集め、公開プレゼンテーションを実施。大日本コンサルタント、

大日本コンサルタント
が提案した完成予想



アジア航測、大目コンサルタント、八千代エンジニアリング、長大、日本技術開発の6者がそれぞれ独自のプランを示し

た。公開プレゼンは、これまで建築工事では例があるが、土木工事では初めてという。

大日本コンサルタントの提案は、周辺景観との調和に配慮した「対話する橋をコンセプト」とし、事業費約53億円を見込んでいる。